

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立矢田西中学校

【 第 1 学 年 】

生徒数(人)

36

平均得点（点）

平均無解答率（%）

	国語	数学	英語
学校	62.4	52.2	59.1
大阪市	61.8	52.6	66.9
大阪府	63.2	53.7	69.3

	国語	数学	英語
学校	6.9	6.3	8.1
大阪市	5.8	6.0	5.1
大阪府	5.4	5.9	4.9

結果の概要

国語では、大阪市平均を上回っており、「話す・聞く能力」・「読む能力」で大阪府平均も上回っている。数学では、大阪市平均とほぼ同じになっている。「数学的な見方・考え方」で大阪府平均も上回っている。一方、英語では、大阪市平均を大きく下回っており、苦手意識ができつつある。「書くこと」や「外国語表現の能力」の得点率が低い。

成果と今後取り組むべき課題

大阪市平均を上回っている教科があるものの、英語を中心にまだ基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合も多い。生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図る。生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう引き続き最善の学習効果を目指し、指導方法の改善を進める。また、家庭と連携して、基本的な生活習慣の確立を図り、家庭学習の習慣が身につくよう指導する。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人)

49

平均得点（点）

平均無解答率（%）

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	60.0	41.8	42.7	39.4	47.2
大阪市	61.3	43.9	47.0	43.8	52.5
大阪府	62.9	46.6	49.4	45.4	55.0

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	4.5	6.5	5.0	3.7	3.0
大阪市	6.2	8.0	8.3	5.3	4.0
大阪府	5.3	7.6	7.5	4.7	3.8

結果の概要

全教科とも大阪市平均を下回っている。国語や社会は大阪市平均との差が小さいが、他の3教科については、4～5点の差がある。平均無解答率は各教科とも大阪府・大阪市平均よりも低く、最後まで努力する姿勢が見られる。

成果と今後取り組むべき課題

基礎・基本の定着が不十分な生徒の割合も多い。生徒の実態に沿ったきめ細かな授業を実施し、基礎学力の定着、応用力の育成を図る。生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう引き続き最善の学習効果を目指し、指導方法の改善を進める。また、家庭と連携して、基本的な生活習慣の確立を図り、家庭学習の習慣が身につくよう指導する。